

## 音の響きを感じよう 手作り教材で『プパポ』

### 教科・場面

音楽

### 授業・実践のねらい

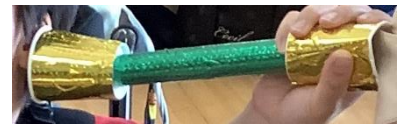
- ・音の響きを感じて表出したり、声を出したりする。
- ★筒から出る声や音を聴いて表出をひきだす
- ★音楽に合わせて身体を動かす中で口の動きをひきだす

### 対象の児童・生徒\*

- ・小学部4年生、5年生

### 教材・教具

ラップの芯と紙コップで手作りのラッパ型の教材をつかった。



### 工夫したところ

筒に向かって声を出すだけでなく、たたくことでも音の響きを感じられるような教材にした。  
本物のラッパのように見せたいので紙コップには金色のテープを巻いた（消毒も簡単になった◎）

### 授業展開・教材の使い方・実践の内容など

#### ①曲を聞いてみよう

#### ②声の響きを楽しもう

- ・先生や友だちの声を聴く

ラッパに向かって声を出すということを教師が実演し、見通しを持って取り組めるようにした。  
ラッパを児童の耳に当て、教師が声を出したり、友だち同士で声を出し合ったりして響きを感じた。

- ・歌ってみよう

歌詞「プー パー ポー」の部分でラッパを口元に近づけ、発声を促した。  
発声がむずかしい児童の場合は、ラッパを口元に近づけたときに口を動かすなどの表出を待った。  
また、ラッパの筒部分をバチなどでたたいて音を出しながら参加するようにした。



### 授業・実践を通じた児童生徒の変容

ラッパを手渡すと中を覗き込むなど、はじめは教材そのものに対する興味からの行動もみられた。教師や友だちと声を出し合って遊ぶ中では、声が聞こえると笑顔になったり目を大きく開いたりして音を感じている表出が多くの子にあった。発声がむずかしい、聴力がやや弱い児童でも、筒を通してくる音や筒部分をたたくことによって響く振動を感じて表情が変わることなどもあった。くりかえし取り組むと見通しを持ち、ラッパに向かって自ら声を出す児童がふえた。